

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-83	実施計画番号	101	事業開始年度	
事務事業名	ひとり親家庭に対する支援の充実			事業終了年度	
担当課名	福祉課		事務の種類(選択)	自治事務	
根拠法令等	十和田市ひとり親家庭等医療費給付条例	関連事務事業	児童扶養手当		
背景や経緯等	福祉サービスに関する情報提供を行うことにより、ひとり親家庭の自立を促進するとともに児童の福祉の増進を図る。				
事務事業の目的	福祉サービスの活用により、ひとり親家庭の経済的不安を解消し、安心して子育てができる環境を整備する。				
実施状況	ひとり親家庭等医療費受給資格更新、児童扶養手当現況届等の事業について広報へ掲載し周知を図った。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	243	243
	人件費(千円)	1,080	8,748	8,748
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1		
	活動日数(日)	220		
臨時職員	人件費(千円)	1,430	0	0

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	50,070	52,169	51,938

【指標】

活動指標	活動指標名①		助成対象者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	2,510	2,430	2,350
	活動指標名②		助成件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	22,686	23,300	23,300
成果指標	成果指標名①		対象者1人あたりの年間利用件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	助成件数 /助成対象者数	件	目標値			
			実績値	9.03	9.58	9.91
			達成度(%)			
	成果指標名②		1件当たりの助成金額			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
年間総助成金額 /助成件数	円	目標値				
		実績値	2,207	2,239	2,229	
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">一定の所得を下回り、事業の対象となるひとり親家庭は、保健の向上と福祉の増進を図る上でも支援が必要である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	一定の所得を下回り、事業の対象となるひとり親家庭は、保健の向上と福祉の増進を図る上でも支援が必要である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
一定の所得を下回り、事業の対象となるひとり親家庭は、保健の向上と福祉の増進を図る上でも支援が必要である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1人当たりの件数、1件当たりの助成金はほぼ変わりがない。 平成28年度から支払基金、国保連に審査支払業務を委託する。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	1人当たりの件数、1件当たりの助成金はほぼ変わりがない。 平成28年度から支払基金、国保連に審査支払業務を委託する。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	1人当たりの件数、1件当たりの助成金はほぼ変わりがない。 平成28年度から支払基金、国保連に審査支払業務を委託する。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">平成28年度から支払基金、国保連への審査支払業務委託により事務の軽減を図っていく。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	平成28年度から支払基金、国保連への審査支払業務委託により事務の軽減を図っていく。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	平成28年度から支払基金、国保連への審査支払業務委託により事務の軽減を図っていく。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">偏りは見られない。また、自己負担額についても、他市町村と比較しても妥当と判断できる。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	偏りは見られない。また、自己負担額についても、他市町村と比較しても妥当と判断できる。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
偏りは見られない。また、自己負担額についても、他市町村と比較しても妥当と判断できる。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

効率性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

平成28年度に実施する支払基金、国保連への審査支払業務委託により、事務の軽減が図られる。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

平成28年度から支払基金、国保連への審査支払業務委託することにより、市事務の軽減、市民サービスの向上、医療機関の窓口業務、請求事務の簡素化が図られる。